

令和3年度 岡山県立倉敷南高等学校 学校評価書

1 自己評価

- | | |
|------------|------|
| I 評価結果 | 別紙参照 |
| II 分析・改善方策 | 別紙参照 |

2 学校関係者評価委員名

高塚 成信 (岡山大学 大学院教育学研究科 特任教授)
青山 新吾 (ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 准教授)
有村 省吾 (元倉敷市立東中学校長)
日下 知章 (山陽新聞社常務取締役 倉敷本社代表)
田野 美佐 (本校 PTA 会長)

3 学校関係者評価 (学校関係者評価委員からの意見)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・学校経営計画の重点目標の4つの柱「個別最適化を目指し、すべての生徒の学びを支える学習指導」「3年間を見通したキャリア計画に基づいた進路指導」「自主性と豊かなつながりを生み出す生活指導」「組織的な広報活動による開かれた学校づくり」を具体化する取組が学校全体で行われており、評価できる。特にインクルーシブの視点から、一人一人が尊重されたすべての生徒の学びを支える学習指導が丁寧に行われていることが素晴らしい。今後も進めてほしい。大学入試において基本的な部分の理解や運用力に課題が見られることから、基礎的な知識の理解と技能の定着を徹底させた上で、思考力・判断力・表現力等を育成してほしい。・探究活動では、見えていない部分にどのような問題が存在しているのかを考えさせ、テーマに対して、なぜその問題を問うのかを考えさせるようにしてほしい。・組織の働き方改革は難しいが、減らす取組みを考えていくことも大事ではないか。人的な配置と地域との協力が改革には大切である。今後も改革の取組を継続してほしい。・広報活動での SNS での発信については保護者へも働きかけをすると、より効果的ではないか。また M-PRiDE 手帳については生徒の意見を取り入れて改訂し、より活用できるものにしてほしい。 |
|---|

3 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性) について

- | |
|---|
| <p>「生徒一人一人が生き生きと学び、能力を最大限に伸ばす『魅力ある進学校』」を目指し、4本の柱を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none">○「個別最適化に対応し、学力を最大限に伸ばす学習指導」
個を活かすカリキュラムづくり、学力を最大限伸ばす取組、実践的英語力を伸ばすグローバル活動の研究、実践を行う○「3年間を見通したキャリア教育計画に基づいた進路指導」
進路実現につながる系統的なキャリア教育プログラムの構築、意図的計画的な面談・学習実態調査等、高い志(難関大学志望者)の育成、キャリアパスポートと連動した e-portfolio の活用の研究、実践を行う。○「自律性と豊かなつながりを生み出す生活指導」
生徒が主体的に活躍できる場・仕組みづくり、生徒をエンパワーし、自治能力を高める集団づくり、豊かなつながりをもつ集団づくりの研究、実践を行う。○「PDCA サイクルが機能する協同的な教職員組織」
協働的な組織運営、PDCA サイクルの確立、業務の ICT 化など、業務の効率化へのさらなる工夫を行う。 |
|---|